

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.147 2006.11.1

うまくできるかな!?

体験講座 機械時計を作ろう! 開催



もくじ

- 誌上博物館◇空穂と妻藤野 —その愛と悲しみ— ……2、3
- 博物館TOPICS①◇博物館100周年記念事業 ……3
- 博物館TOPICS②◇体験講座 機械時計を作ろう! ……4
- ガイドコーナーはんでんぼく ……4

平成18年度窪田空穂記念館企画展 空穂と妻藤野 — その愛と悲しみ —

平成17年12月一冊の本が刊行されました。『^{ぼうさい}亡妻の記』と題されたその本は、窪田空穂が大正6年に著し、刊行直前で断念し、以来その原稿は誰の眼にも触れることはなく、「幻の原稿」と言われてきたものでした。

空穂はこの原稿を、結婚後十年で二人の子どもを残して亡くなった妻藤野の追悼として、子どもや親族等に形見分けとして配ろうとして著しました。特に当時幼かった子どもに母の愛を伝えようとしたといひます。

書いておくこれの^{ひとまき}一卷その心

細らむ時は読みね我が子等

しかし、これを読んだ友人水野葉舟の助言で、刊行し配ることを断念したのでした。

平成16年、空穂の令孫窪田新一夫妻が、空穂の旧居に残されていた空穂の遺品を整理しているなかで、この原稿を発見しました。原稿は洋菓子店の包装紙を裏返して紐で固く結ばれていたといひ、開いて「窪田藤野」と題された原稿の束を見た時は手が震えたそうです。



原稿と刊行本

空穂の長男章一郎氏（歌人・文学者、平成13年没）も長年この原稿を探していたのですが、生前には見つからず、その残念な思いを随筆集『樹下雑筆』に記しているところからも、発見がいかに衝撃的であったかが伺われます。

『亡妻の記』は妻の伝記としても書かれています。「結婚まで」では藤野との馴れ初めから結婚までを往復書簡を中心に描き、「母となるまで」から、「二子、三子、四子の母となるまで」では、東京での生活、子どもの教育等を藤野の日記や短歌などを交えながら、人となりがかかるように著されています。

われ呼びて追ひ来し妻はかがまりて

裾より取りつ草の枯葉を

最後の章となる「発病から永眠まで」は、小説家になろうとしたことのある空穂ならではの、臨場感溢れる筆運びで藤野の最後の場面を綴っています。

その命死な^{まわ}む際にも我が妻は

常に見し如かりにけるかも

当時この原稿を読んだ友人の一人前田晁は「藤野さんだけを大きく扱って、君自身を小さくしすぎているよ。」と

感想をもらしたといひます。

今回の展示では『亡妻の記』の原稿はもちろん、結婚までの書簡も展示してあります。



空穂・藤野・水穂の書簡

これらの書簡には空穂と藤野の間を取り持った太田水穂（当時水穂は藤野の通った松本高等女学校の教師でした）のものもあり、彼はこの恋や結婚に対する藤野の悩みを聞いたり、空穂の代りに藤野の父親と交渉したりしています。藤野は酒造家の長女として育ち、養子を迎える話が進んでいた頃のこと、父親としてはこの結婚に賛成はできず一旦は断ります。当時空穂は定職がなく、また将来に不安があったことなども理由の一つであったと考えられます。しかし、藤野の想いは強く、終に親はこの結婚を許す事となったのでした。

思ほえず我に行き逢ひ立ち止り

^{おもて}面紅めて我見し人はも

そうした恋愛時代の藤野の書簡は、後に『亡妻の記』を記すため、空穂が筆記し直して残っています。

また、藤野の家計簿が明治41年から大正6年まで残されていて、豆腐や卵、煙草、足袋などの支出や収入が細かく記されていて、当時の暮らしのうらさを



藤野の家計簿

で、貴重な記録ともなっています。

収入の安定しない空穂、来客の多い家庭、大きくなっていく子ども…。この家計簿からは主婦として、一家を切り盛りする藤野の苦勞と喜びを垣間みることができます。

空穂の日記も残されています。今回は恋愛時代から藤野が亡くなるまでの日記をお借りすることができ、その一部をご覧ください。

明治40年3月の日記は「帰省の記」と題され、藤野との見合いの様子が書かれています。それは藤野の父親から交際を許されて、見合いという形式を取り正式に婚約するための帰省でした。空穂の筆はまるで短編小説のようにその模様を描き出しています。大正6年の日記は、藤野の死から追悼帖（亡妻の記）を書き上げるまでの過程が記されていて大変興味深いものです。



空穂の日記

人呼ぶと妻が名呼べり幾度いくたびを

かかる過ちするらむ我は

空穂は藤野の十日祭に追悼帖を編む事を決心します。

東京での生活にも区切りをつけ、子ども達のいる故郷で追悼帖を書きます。藤野の実家や空穂の実家を往復しながら、亡き妻の思い出に浸る空穂。子どもに近寄ってくる筈に、藤野の想いを感じる空穂。

其子等に捕へられむと母が魂たま

蛍となりて夜を來たるらし

その道のりは遠く、書き上げたのは4ヵ月後、季節は春から秋へと移っていました。原稿を書き上げた空穂は、藤野に対する想いに整理をつけ、子ども達との新たな生活に踏み出すために上京しました。

一年後刊行された歌集『土を眺めて』では、巻頭に「臨終」と題した長歌を置き、この一冊の大部分を藤野の追悼にあてています。

参考：窪田空穂著『亡妻の記』、『土を眺めて』、『わが文学体験』
白井和恵著『窪田空穂の身の上相談』
窪田章一郎著『樹下雑筆』

（窪田空穂記念館 学芸員 田川恵美子）

博物館 TOPICS①

博物館100周年記念事業

9月21日、博物館は開館100周年を迎えました。ここに至るまでの長い道のりは決して平坦とは言えないものでしたが、幾多の試練を優れた先達の指揮と市民の皆さんの支えで乗り切ってきたことは紛れもない事実といえます。

100周年記念事業最大の企画となった特別展『博物館100年モノ語り』では人々に愛され支えられてきた博物館の歩みを浮き彫りにすることができました。また、一方で市民の皆さんから寄附された10万点以上に及ぶ膨大な資料を垣間見ることとなり、博物館に托された人々の思いや夢がかけがえのない財産であることをあらためて知ることとなりました。

この特別展には6,459名に及ぶ来館者がありました。特に市内のデイ・サービスセンター等に入所されているお年寄りの皆さんにも多数お出かけいただき、とりわけ昔の生活道具の展示は過去を回想する場としてとても人気がありました。

また、前号でも紹介しましたが、この特別展では来館者の皆さんから寄せられた博物館の思い出や夢を展示するコーナーも設けました。ここには大人ばかりでなく、小学生から高校生まで博物館の将来を担う若い世代からも参加が多数あったことが喜ばしいことでした。

9月21日の100周年記念式典は、博物館の前身である「明治三十七、八年戦役記念館」が置かれた松本尋常高等小学校（旧開智学校）の後輩たち、開智小学校の5年生50余名の参加もあり、市制100周年マスコット・アルプちゃんの日館長就任とあいまって盛大にお祝いをす



ることができました。子ども達にとっても、一生忘れえぬ思い出になったに違いありません。

友の会主催のシンポジウム「21世紀の博物館づくり」には、会員を中心に約70名の参加があり、松本大学の佐藤博康教授のコーディネイトのもと、3名のパネリストと参加者により、将来の博物館づくりへの熱い思いを語っていただくことができました。シンポジウムに先立つ9月2日の講演会「市民とミュージアム」において講師の岡部幹彦文化庁調査官からも示されたように、「松本まるごと博物館」は市民学芸員として市民みんなが係わることができ、みんなが学びあい、みんなで育てていくものでなくてはなりません。友の会の皆さん自らの手で企画から実施までを運んだこのシンポジウムは、まさにその第一歩といえるものでしょう。

（学芸員 竹原 学）

体験講座 機械時計を作ろう!

時計博物館では、小中学生対象の体験講座「機械時計を作ろう!」をはじめ開催しました。開館以来の課題だった子ども向けの講座は、4年目によやく実施の方向を見出し、時計技師のみなさんの絶大なる協力を得て、秒針だけをつけたおよそ15分間動く重錘動力の時計を教材として開発しました。

一般公募の講座開催に先立ち、9月26、27日の両日、開智小学校の6年1組と4組の児童のみなさんが、親子レクリエーションという形で、時計作りに取り組みました(表紙)。初日は悪戦苦闘したものの、「同じ目標に向かって子どもと時間を共有できた」と親子のふれあいにも一役買

ったようです。

10月7日には一般公募の講座を開催し、小中学生が時計作りに挑戦しました。歯車を2つだけに省略し、機械が見えるように透明な地板を使ったことで、「時計のしくみがよく分かった」と、子どもたちにも好評でした。

モノを手作りする機会が少なくなった現代にあって、自分が手づくりしたモノが動いている感動は、何にも変えがたい体験となったのではないのでしょうか。来年も開催する予定ですので、今回参加できなかった方は楽しみにお待ちしております。

(時計博物館 学芸員 木下 守)

ガイドコーナー はんてんぼく

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

市民学芸員養成講座

回	期 日	テ ー マ
1	11/18(土)	絵図を片手に江戸の町並みを探る
2	11/23(木)	稲核菜って何? 食をめぐる風土と文化
3	12/ 9(土)	冬こそわかる。山城の成り立ち
4	1/13(土)	あめ市の街を歩こう・商都松本を見る
5	2/ 8(木)	厄病神を追い払え・こと八日を訪ねて
6	2/24(土)	古い写真や絵葉書を持って城下町を歩く

対 象 原則として6回すべてに参加し、徒歩による現地見学が可能な方

参加費 1,200円 定員 15名

申込み 11月8日から電話で市立博物館本館まで

考古博物館・重文馬場家住宅から

講座「東山山麓を歩く」

期 日 11月11日(土)

場 所 馬場家住宅～考古博物館

参加費 保険料200円

申込み 10月27日から電話で考古博物館まで

考古博物館から ☎0263-86-4710

企画展「中山の考古学」

会 期 11月26日(日)まで

観覧料 大人200円・中学生以下無料

関連事業・土器に触れてみよう

期 日 11月18日(土) 定員10人 申込受付中

移動博物館「八十二銀行ウインドウ展」

期 間 12月1日(金)～1月5日(金)

場 所 八十二銀行営業部ショーウインドウ

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

お茶席の会

期 日 裏千家:11月12日(日)

参加費 観覧料300円のみ 申込み 不要

あとがき

「わがやのお宝蓄音機展」に、県下各地から寄せられた蓄音機31台。そのエピソードの中に「センペイ で出来た童謡のレコード」があり、音質が不良になったら食べた様な記憶がありますが……とあった。「本当!?!」と思ってインターネットで調べると、ヒット。初代・桂春団治師が発明したらしい。本当にあったんだ!! (M.K.)

体験教室 ソバ打ち

期 日 11月19日(日)

参加費 500円

申込み 11月10日から電話で馬場家住宅まで

しのめの道講座②「内田地区の文化財」

期 日 11月25日(土)

参加費 200円

申込み 11月14日から電話で馬場家住宅まで

企画展「写真で見る東山山麓の御柱展」

期 日 12月16日(土)～1月21日(日)

観覧料 通常観覧料のみ

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

空穂伝統こども教室(百人一首の部)

期 日 11月18日、12月2日、16日、1月13日の土曜日の10:10～12:00

場 所 窪田空穂生家

対 象 小中学生

定 員 50人

参加費 無料

申込み 各回の2週間前から空穂記念館へ

時計博物館から ☎0263-36-0969

公募企画展「わがやのお宝蓄音機展」

会 期 11月12日(日)まで

入館料 無料(常設展は有料です)

松本民芸館から ☎0263-33-1569

企画展「生活に彩り 玩具展」

会 期 12月19日(火)～2月11日(日)

体験講座「正月飾りと初音づくり」

会 期 12月23日(土)

お知らせ

松本市立博物館本館は、改修工事のため、12月1日から2月28日まで臨時休館いたします。

あなたと博物館 No.147

発行年月日 平成18年11月1日

編集・発行 松本市立博物館

〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133

URL: <http://www.city.matsumoto.nagano.jp>

e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp